



学校だより



2026年 6月30日
横浜市立港南台第一小学校
7月号



この地域のボランティア精神がすごい

校長 本多 響

私がこの学校に着任して驚いたことは、保護者のボランティアや学援隊の方々、地域の方々の学校へのサポートがすごいということです。家庭科の学習で調理や裁縫などの活動があると、本当にたくさんの保護者がお手伝いに来てくれます。朝は、毎日学援隊の方々が横断歩道のところに立ってくれています。こんなことはなかなかないことです。保護者のお手伝いも横断歩道の見守りも、どこかから給料が出るわけではありません。これは本当にすごいことだと思います。では、みなさんのボランティアの気持ちはどのように生まれてくるのでしょうか。

私は先日5年生とともに、三浦の宿泊体験学習に行きました。子どもたちは元気に活動できました。私はこの体験の中で、「ボランティアの考え方」にかかわる2つのことを感じました。一つは、子どもたちは朝起きて帰る前に、ベッドを直したり、シーツをまとめたりして次の人のことを考えた整理・整頓を行っていました。もちろん先生がそのように指導をしていたからやっている部分もあったと思いますが、子どもたちはごく自然にベッドを片付け、荷物を整理し、シーツをきちんとまとめてくれました。先生は声をかけていましたが、子どもたちが気持ちよく活動している雰囲気を感じられて、私はとてもうれしくなりました。子どもたちから自然に誰かのために動いていることができることってすごいことなのではないかと思いました。これがボランティアにつながっているかなと思ったのです。また、もう一つは私と先生たちでシーツを集めて洗濯袋に詰めていると、思いのほかシーツが多すぎて、洗濯袋に入らなくなっていました。私はそれならはみ出てしまったシーツは横にまとめることは仕方ないことかなと思ったので、横に置くようにしていました。すると一人の5年生の女子が、「先生、これはもう少しちゃんとたたんで洗濯袋に入れるようにした方が良いと思うよ。だって横に置いてしまったらもっていく人が困ると思うよ。」と提案してくれました。その言葉を聞いて、私ははっとしました。確かにその通りです。シーツを集めておくことしか考えていませんでしたが、このシーツを洗濯する人はたくさんのシーツをもっていくわけです。少しでもたたんで袋に入れた方が持っていくやすくなります。この5年生の女子の言葉で改めて気づかされたのです。次の人のために、自分ができるところを考えられることは素晴らしいことだし、これこそがボランティアにつながる考え方だなと感じました。校長になってもまだまだ子どもたちから学ぶことがあるなどこの女子に感謝しています。

私は港南台第一小学校の保護者や地域の方々はこの「誰かのためにできること」や「次の人のために自分ができるところ」をごく自然に考えることができるから、いろいろな場面でお手伝いをしてくれるのだと改めて思いました。これはなかなかできることではありません。でも日本の文化として誇りに思う部分でもあるので、私も今まで以上に見習っていけないなと感じました。また、港南台第一小学校の子どもたちを育てるチームとして、保護者、地域、教員と一緒に頑張ってくれていることを改めて感じることができ、心強く思います。本当にいつもありがとうございます。